



『グラフィック』誌に連載された「テス」の挿絵から

## CONTENTS

トマス・ハーディ コレクション

VOICE

図書館さんぽ 第2回「日韓文化交流基金図書センター」

LIBRARY NAVIGATOR

新収資料紹介

INFORMATION

中央大学の中央図書館は、イギリスの作家トマス・ハーディのコレクションでも有名である。最近、ちくま文庫に翻訳『テス』の挿絵を入れるときも、このコレクションの雑誌が使われたし、いつだったかイギリスのFM放送局 (Classic FM) が、わざわざハーディ・コレクション取材のために訪れたこともある。トマス・ハーディ (Thomas Hardy, 1840-1928) は今なお多くの読者をもつ世界的なイギリスの作家だが、ハーディと中央大学との関わりは、法学部を中心にハーディ学者が複数在籍していたことによる。学界でもハーディといえば中央大学と言われ、そのために「日本ハーディ協会」の学会事務局は中央大学に置かれている。

このコレクションは、イギリスのハーディ学者、ジェームズ・ギブソン博士 (Dr James Gibson) が30年かけて収集したものを中心に、その後いくつか補充をして出来上がっている。古書としてきわめて高価なハーディの初版本や、いろいろな版の作品、書簡の現物、初出の雑誌類、戯曲化されたときの公演プログラム



William Strang 筆 肖像画

ムにハーディのサインの入ったもの、ハーディの肖像画の画家によるオリジナル・スケッチなどいろいろだが、なかには青年時代のハーディが妹にプレゼントした動物図鑑まで含まれているし、かつてイギリス首相だったハロルド・マクミランが署名した、ハーディ没後40年記念出版物もある。

このコレクションは、マニアが集めた珍しいものという種類ではなく、世界的なハーディ学者が時間をかけて集めただけのことであって、学問的価値が高いことが特徴だろう。貴重書庫のなかでじっくりと時間をかけていると、それなりに面白い発見もある。コレクションの半数以上は貴重本扱いではないので、書棚から手にとって版の違いを見るだけでも、この作家について、あるいは印刷された時代について、雰囲気をつかんだ気にさせられる。

このギブソン博士は私よりも15歳年長だが、私にとっては友人のジムでもある。ジムはハーディの詩の専門家として、学問的に世界的な業績をあげる一方で、文学愛好家たちと詩の朗読会をして、詩の楽しさを伝えてきた。そのジムも現在85歳で、今年の夏、



ハーディの代表作である▶  
*Tess of the d'Urbervilles*初版本



◀ **The Wessex Novels**  
**(Osgood, McIlvain & Co.)**  
 ハーディ初の全集版

▶ **Riviereの製本初版本集**  
 著名な製本業者による特製本



▼ マックス・ゲイトの旧ハーディ邸にてギブソン博士夫妻（写真左側）と筆者



イギリス南部のドーチェスターで開かれた、トマス・ハーディ国際学会では「最後の言葉」という講演をした。表向きはハーディの作品の最後の言葉について論じたのだが、ジムの長い学者生活を締めくくる講演であることは、明らかだった。「私はハーディを生涯の仕事にして、幸せだった」という言葉で、講演を終えたとき、聴衆全員が総立ちになって拍手を送る場面は、まさに感動的だった。

ジムが一生をかけた作家、トマス・ハーディの魅力とは、何なのだろうか。ハーディの生きた時代は19世紀後半から20世紀初頭という、まさに精神的にも、経済的にも激動の時代だった。産業革命によって経済的

な比重は農業から工業へと移っていたし、人口も田舎から都会へと移動していた。村落共同体の濃密な人間関係から、都会的な、人間と社会とのつながりが薄くなった生活への変化は、人間の心を不安にさせた。そこへもってきて、キリスト教の秩序にたいする、さらに深刻な疑念も持ち上がっていた。自然科学の発達によって知られるようになった事実と聖書の記述との違いは、重大な問題だった。ダーウィンの『種の起原』（1859年）が投げかけた問題は、現在の私たちの想像を超えるものであったといっ



スは、経済活動も1870年代に、農業の面でも、工業の面でも大不況をむかえてしまう。1851年の大英博覧会は、イギリスの繁栄の象徴でもあったのだが、同時にこれから没落することの前触れともなる行事だった。

このようななかでハーディは、価値観の変化の狭間であって苦しむ知識人や、もくもくと堪え忍ぶ農民などを描き、人間が生きることの意味を掘り下げていった。ハーディはヨーロッパの人びとの価値観が変わる時代に生きたからこそ、複雑で深みのある文学を作り上げることができたと言える。時には悲観的だとか、暗いと言われるが、ハーディ自身は素朴な田舎の人間であり、ユーモラスな面がある一方で、照れ屋で引きこもるところもあった。そのハーディの作品は、読み手の感性を刺激して、さらに奥深い人間の本質に目を向けさせる。

ハーディは田舎の、身分の低い職人の家に生まれたが、亡くなったときはイギリスの名士として国葬にされ、灰はロンドンのウェストミンスター大聖堂に納められた。しかし、心臓だけは切り取られて、故郷の村のスティンズフォード教会に埋葬された。イギリスを代表する大作家でありながら、心は田舎にあったハーディにふさわしい埋葬の仕方だが、嘘か本当か、一つの噂話が残っている。ドーチェスター郊外のマックス・ゲイトの邸宅でハーディが亡くなって、心臓はビスケットの缶に入れられたが、それを一匹の猫が狙っていて、隙を見て食べてしまったというのである。慌てた人びとは猫ごと埋葬するしかなかった。だから故郷の「ハーディの心臓の墓」は、「ハーディの心臓を食べた猫の墓」だというのだ。現在では、この話もあまり語られなくなったが、文学者ハーディの謎については、今なお議論が続いている。



トマス・ハーディの心臓の墓

## Voice

### くさのるい 草野類

専攻分野の関係でときに訪れるその書店でくれる黄色の買物袋には、ドイツ語でこう記されている。BÜCHER : Erfahrungen, die man kaufen kann. 「本、それは買って得ることのできる経験である」というくらいの意味だろうか。

小説を読むとき、私たちはそこに登場する様々な人物に自らを重ね合わせ、ストーリーの中で進行する様々な事象を共に経験する。エッセイだったら文章の中に息づく著者の思考や嗜好あるいは想いを自分のもののように感ずるかもしれないし（あるいは反撥を感ずるかもしれないが…）、いや、たとえ学術専門書であっても、著者が全人格的英知を注ぎ込んで手にした研究成果を読者が一体となって共有・経験することができる。

そういう意味で、本というのはやはり、とつながることのできる経験—仮想的・仮定的なものを含めたそれ—を伝えるための—コミュニケーション手段—なのだと思う。

それを踏まえてあの買物袋の文句風には言え、図書館についてはこのようにいえるのではないかな。すなわち、「図書館、それは様々な経験がたくさん詰まった、宝の場である」と。

もちろん、図書館で（本から）得られる経験は実体験とは比ぶべくもなく、それがすべてということは、おそらく、決して、ない。

しかし、限りある一生の中で—他人の人生を直接に生きることが決してできない中で—本がもたらしてくれる「他者の経験」とそこから得られる様々な事柄—未知なる知識、元気、勇気、よろこび、楽しさ、哀しみ、感動……—は、私たちにとってきっと貴重なものになりうる、と私は思う。そして図書館はそんな様々な経験を満たしてくれる場なのだ。

長くもみじかい学生生活の中で、閲覧席の大きな窓から眺める景色に四季の移り変わりを感じながら、私たちはどれだけの本に触れ、どれだけの経験に向き合うことができるだろうか。

(大学院法学研究科)

**住 所**：〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-12-1 虎ノ門ワイコービル3階

**T E L**：03-5472-6667

**F A X**：03-5472-6668

**U R L**：http://www.jkcf.or.jp/library/

**蔵書検索**：http://www.jkcf.or.jp/library/opac/

**利用資格**：高校生以上 利用登録（要身分証明書）が必要

**開館時間**：月、水、金曜日 10:00～18:00

火、木曜日 10:00～19:00

**休館日**：土・日曜日 祝祭日 年末年始・特別整理期間

**サービス**：閲覧・複写・貸出（禁帯出資料を除く）・レファレンス

**蔵書数**：20,549冊（和書 9,896冊 韓書 9,749冊 洋書 904冊）、AV資料1,653本、雑誌 200種（日本語122種 韓国語その他 78種）、新聞 9紙（日本語 4紙、韓国語5紙）、マイクロフィルム249リール、民俗資料（展示用韓服、遊び道具、日韓両国旗ほか）29点（貸出可 要予約）

**交通アクセス**：地下鉄日比谷線神谷町駅より徒歩1分

**座席数**：6席、蔵書検索機2台、マイクロ用リーダープリンター1台、視聴覚ブース2基

日韓文化交流基金図書センターは「日本における韓国・朝鮮半島に対する理解をより幅広く深いものとするための様々な資料を収集し、閲覧・貸出・レファレンスサービスを行なう」ため1995年より活動を開始した専門図書館です。

約20,000冊の図書はもとより、ビデオを中心とした1,600点のAV資料、雑誌、新聞、マイクロフィルムなど所蔵資料はきわめて充実しており、チャンゴ、ユンノリなどの遊び道具、展示用韓服などの民俗資料は貸出も行なっており、毎年文化祭シーズンには予約が殺到するそうです。

また、韓国・朝鮮語のできる方や韓国・朝鮮文化に造詣の深い方をスタッフに揃えており、万全の体制で私たちの利用を待っています。



ユンノリ（すころく双六に似た伝統的なゲーム）



カウンター周辺

ただ、中には一般の大学図書館や公共図書館でも所蔵している図書を借りてゆく学生がいたり、普通の大学図書館の所蔵資料で調査可能なレファレンスも増えているようです。でかける前に所属する大学図書館の所蔵資料を一度調べてみましょう。

こうした傾向は、例のテレビドラマの人気と共に顕著になってきているようですが、「きっかけはともかく、お隣の国に対する関心をもっともっと深め、広げて欲しい」とはスタッフの皆さんの弁でした。



# Library Navigator

## 学術論文と、研究の「家系図」

ある研究を行う上で、同じ分野で今までにどのような論文が書かれているかを調べることは多くあります。学術論文の末尾には、必ず参考文献（References）の記載があり、その論文がどの先行論文を引用して書かれたかが分かるので、どのような道筋を経てその研究が構築されたのかが見えてきます。

また、同じ先行論文を引用して書かれた、いわば「兄弟」にあたる論文は大いに参考になるだけでなく、それを読んでおくことで世界の誰かと重複する研究を行ってしまう無駄も避けられます。

しかし莫大な情報の波の中で、参考文献欄を頼りに研究の「家系図」を作るのは非常に手間がかかり困難です。そこで便利なのが、ここで紹介する「Web of Science」です。

## Web of Scienceとは

全世界で刊行されている学術雑誌のうち重要な約8,500タイトルを採録対象誌とした、引用文献情報のインターネットオンラインデータベースです。

書誌的事項（論文名、著者、キーワードなど）の他に、引用文献データも索引化されており、ある論文をどの論文で引用しているのかがわかります。

また、関連文献を検索することが可能で、研究の流れや重要度・影響度が調査できます。

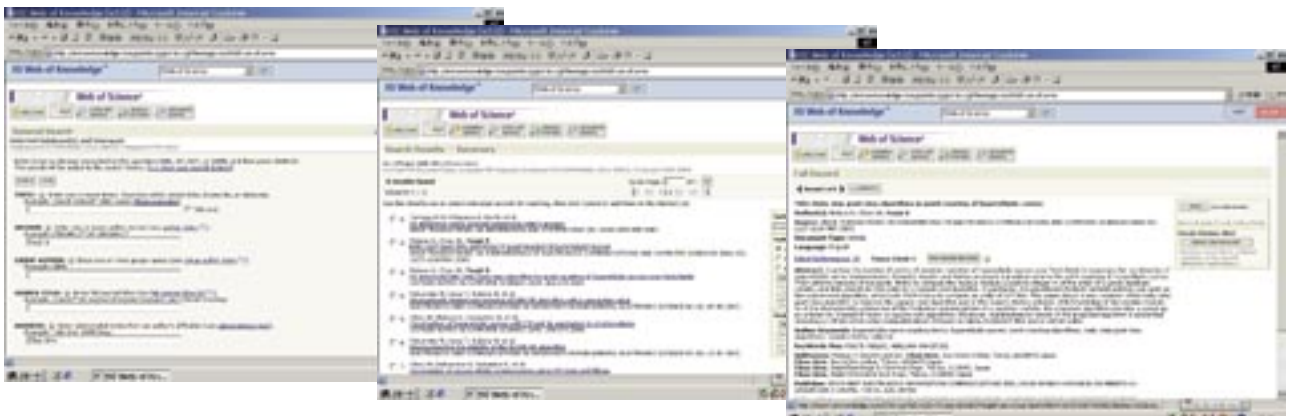
例えば、あるキーワードで検索した多数の論文を、引用される回数の多い順に並べ替えて見ることも出来ます。

## Web of Scienceの特長

- (1) 引用の流れを見れば研究の流れがわかる。
- (2) 見逃していた論文が見つかる。
- (3) 論文のインパクトがわかる（研究動向のチェック、研究の評価から、業績の質的評価に活用できる）
- (4) 最多被引用論文がわかる。
- (5) 総説論文が論ずる文献の評価ができる。
- (6) 新しい研究を始める際に研究テーマの背景、研究の価値、最新の世界の研究動向がつかめる。
- (7) 全く異なる分野での応用を知ることができる。
- (8) 研究のリンク集として使える。
- (9) 電子ジャーナル、他のデータベースへの効果的なリンクが可能である。

## Web of Science接続方法（キャンパス内のみ利用可能）

- ①中央大学図書館トップページ<http://www2.tamacc.chuo-u.ac.jp/library/> のメニューにある「外部オンラインデータベース検索」をクリック。
- ②「外部オンラインデータベース検索」ページの「Web of Science」をクリック。
- ③「Web of Science」紹介ページ下段のボタンをクリックし、検索画面へ。





# 新収資料紹介

①教職員著作目録 2004.4-2004.9 ( )は所属学部等

著者名	書名	出版社	配置場所	請求記号
青木 統夫 (商学部) 著	エルゴード理論と特性指数 (非線形解析 2)	共立出版	中央・理開	413.6/H76
青木 統夫 (商学部) 著	測度・エントロピー・フラクタル (非線形解析 3)	共立出版	中央・理開	413.6/H76
青木 統夫 (商学部) 著	ロジスティック写像と閾欠性の実解析(非線形解析 4)	共立出版	中央・理開	415.6/A53
新井 武二 (研究開発機構) 著	はじめてのレーザプロセス(ビギナーズブックス 34)	工業調査会	理開	549.95/A62
オースティン、ジェイン 著 新井 潤美 (法学部) 編訳	ジェイン・オースティンの手紙	岩波書店	開架・中央	岩波文庫/赤 222-6
石川 鉄郎 (商学部) 著	財務会計論 応用編	税務経理協会	開架・中央	336.9/176
井上 義朗 (商学部) 著	コア・テキスト経済学史 (ライブラリ経済学 コア・テキスト&最先端 8)	新世社 サイエ ンス社 (販売)	中央	331.2/157
井上 英治 (経済学部) 著	ロースクール刑法 上 (ロースクールシリーズ 6)	辰巳法律研究所	開架	320.7/R73
井上 英治 (経済学部) 著	ロースクール刑法 下 (ロースクールシリーズ 7)	辰巳法律研究所	開架	320.7/R73
井上 英治 (経済学部)・ 清水 知彦 著	ロースクール商法総則・商行為法 (ロースクールシリーズ 11)	辰巳法律研究所	開架	320.7/R73
植野 妙実子 (理工学部)・ 山下 泰子 編著	フェミニズム国際法学の構築	中央大学出版部	開架・中央	367.2/Y44
内田 勝也 (研究開発機構)・ 高橋正和 著	有害プログラム(サイバーセキュリティ・シリーズ 2)	共立出版	開架・理開	549.92/U14
大淵 博義 (商学部) 著	国税の常識 第7版 (知っておきたい)	税務経理協会	開架・市ヶ谷	345/O19
奥本 勝彦 (商学部)・ 林田 博光 (商学部) 編著	マーケティング概論	中央大学出版部	開架・中央	675.2/O5
加賀野井 秀一 (理工学部) 著	ソシユール(講談社選書メチエ 300 知の教科書)	講談社	開架・中央	801.02/Ka16
川崎 嘉元 (文学部)・ 滝田賢治 (法学部) 編著	グローバルゼーションと東アジア (中央大学学術シンポジウム研究叢書 4)	中央大学出版部	開架・中央	332.2/C66
勝又 寿良・岸 真清 (商学部) 著	NGO・NPOと社会開発	同文館出版	開架・中央	361.9/Ka88
木田 元 (名誉教授) 著	哲学の横町	晶文社	開架・理開	104/Ki12
工藤 達朗 (法科大学院)・ 畑尻 剛 (法学部) 著	憲法	不磨書房 信山社 (販売)	開架・中央	323.14/Ku17
国本 伊代 (商学部) 編著	コスタリカを知るための55章 (エリア・スタディーズ)	明石書店	開架・中央	302.576/Ku45
国本 伊代 (商学部)・小林 志郎 著	パナマを知るための55章	明石書店	開架・中央	302.578/Ku45
久保 幸年 (国際会計研究科) 著	適時開示ハンドブック	中央経済社	中央・市ヶ谷	676.1/Ku11
古賀 正義 (文学部) 編著	学校のエスノグラフィー	嵯峨野書院	開架・中央	376.4/Ko24
小堀 憲助 (名誉教授) 著	「知的(発達)障害者」福祉思想とその潮流 (日本比較法研究所叢書 66)	中央大学出版部	開架・中央	369.27/Ko14
今野 浩 (理工学部)・ 刈屋 武昭 編集	金融工学事典	朝倉書店	参考・理開	M338.03/Ko75
真田 芳憲 (法学部) 著	イラク戦争イスラム法とムスリム	中央大学出版部	開架・中央	319.53028/Sa61
島田 修一 (文学部) 編著	知を拓く学びを創る	つな出版	開架・教育	379/Sh36
ヘルマン・ヘッセ 著 高橋 健二 (名誉教授) 訳	幸福論 改版	新潮社	開架・中央	新潮文庫/ へ-1-18
五味 俊樹・ 滝田 賢治 (法学部) 共編	9・11以後のアメリカと世界	南窓社	開架・中央	319.53/G62
武智 秀之 (法学部) 編著	都市政府とガバナンス (中央大学法学部政治学科50周年記念論集 2)	中央大学出版部	開架・中央	318.7/Ta58
立石 二六 (法学部) 編著	刑法総論 27講	成文堂	開架・中央	326.1/Ta94
田中 紘三 (法科大学院 特任教授) 著	弁護士の役割と倫理	商事法務	中央・市ヶ谷	327.14/Ta84
田中 素香 (経済学部)・ 春井 久志 編	欧州中央銀行の金融政策とユーロ	有斐閣	中央	338.43/Ta8
中川 洋一郎 (経済学部) 著	暴力なき社会主義? フランス第二帝政下のクレディ・モビリエ	学文社	開架・中央	338.14/N32
中沢 新一 (総合政策学部)・ 赤坂 憲雄 著	網野善彦を継ぐ。	講談社	開架・中央	210.01/N46
浜田 宏一 (総合政策学部)・ 原代 泰 編著	長期不況の理論と実証	東洋経済新報社	開架・中央	332.106/H22
マリー＝ルイズ・ツィーマン 著 早坂 七緒 (理工学部) 訳	アルザスの小さな鐘	法政大学出版局	中央・理開	946/R74
星野 智 (法学部) 編著	公共空間とデモクラシー (中央大学法学部政治学科50周年記念論集 1)	中央大学出版部	開架・中央	311.7/H92
増島 俊之 (総合政策学部)・ 小林 秀徳 (総合政策学部) 共編著	証言改革を支えるメカニズム	ぎょうせい	開架・中央	301/Ma67
升田 純 (法科大学院) 著	要件事実の実践と裁判	金融財政事情研 究会 きんざい (販売)	開架・中央	327.2/Ma66
ゲーテ 著 山口 四郎 (名誉教授) 著	口誦ゲーテ詩集	中央大学出版部	開架・中央	941/G56
渡邊 浩司 (経済学部)・ 渡邊 裕美子 訳	要塞都市アントルモン エクス＝アン＝プロヴァンス 見学ガイド	アントルモン 考古学協会	中央	発注中

\*配置場所の記載は2ヶ所までとした。



### (1) 故杉本璋夫画伯「曙光（西穂高岳）」を中央図書館に展示

本学にご寄付いただきました絵画が、中央図書館2階ホールにて、8月30日(月)より展示されています。この絵画は、杉本画伯の実弟（好生氏、道生氏）と、スティーブン・ヘッセ法学部教授の連名で寄贈されました。

### (2) 中央館エレベータ工事实施

工事のため、8月21日(土)から30日まで閉館としました。期間中ご不便をおかけしましたが、無事終了しました。

### (3) 「中央館マイクロフィルム資料庫増設工事」

エレベータ工事と同じ時期に、マイクロフィルム自動出納機（システムトリーブ）の増設工事を実施しました。今回の工事により、26,880個のマイクロフィルムが追加で収蔵可能となりました。

### (4) 私立大学図書館協会総会・研究大会開催

9月17日(金)～18日(土)に青山学院大学で開催されました。本学図書館からは、川口館長以下4名が出席しました。また、「中央大学図書館史稿」（2003年3月31日刊）が、2003年度私立大学図書館協会協会賞を受賞いたしましたので、表彰が行われました。

研究大会では、昨年私立大学図書館協会主催の海外研修に参加した高杉幸史閲覧課副課長が、研修報告を行いました。

### (5) 10月企画展示実施

本誌7月号で紹介された「第1回ロンドン万博関係コレクション」について、下記の日程で展示を行いました。

期間：10月4日(月)～10月15日(金)

場所：中央館2階ホール（展示ケース）

### (6) ホームカミングデー実施により休日開館

10月24日(日)に行われましたホームカミングデーのため、図書館は10時から16時まで休日開館を行いました。当日は、例年になく多くの来館・見学者が訪れました。館内では、前記の企画展示をこの日に限り行いました。

### (7) 駐日欧州委員会代表幹部広報部次長が来館

11月9日(火)にアン・コフォード駐日欧州委員会代表部広報次長が、中央図書館内にある国際機関資料室を視察に来館されました。今回の来館は、アン・コフォード広報次長が新しく着任されたことに伴うもので、当日は川口館長と歓談されました。

### 編集後記

早いもので第2号が出来上がりました。創刊号はいかがでしたでしょうか？

図書館広報誌CULは、学生用が1973年から1999年まで刊行され、研究者用は1960年代に一度刊行され中断をしたものの、1981年に復刊し2003年まで続いてきました。

新生CULはMy CULと名前を変え、学生・研究者という枠を越え、利用される皆さんに役立つ広報誌として図書館の動向をお知らせすると共に様々な企画を練りながら、前進していきたいと思っています。

最後に、お忙しい中、深澤先生には特集「トマス・ハーディ コレクション」の原稿を、Voiceでは草野 類さん（大学院生）にご執筆頂き、ありがとうございました。